

造影MRI検査を受けられる方へ

造影MRI検査とは

今回のMRI検査では、ガドリニウム造影剤という薬の注射をして行います。
造影剤を使用することで病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。

造影剤の副作用

他の薬と同様、まれに副作用が起こることがあります。

- ・ 軽い副作用（頻度は約 100 人に 1 人、約 1 %）
じんましん、吐き気、頭痛、かゆみ、くしゃみなど
- ・ 重い副作用（頻度は約 2000 人に 1 人以下、約 0.05%以下）
ショック、呼吸困難、意識消失、血圧低下などのアナフィラキシー様症状、腎機能障害など
- ・ 死亡する危険性（頻度は約 100 万人に 1 人、約 0.0001%）
病状、体質によっては死亡する場合があります。

※ 副作用は注射後 30 分以内に現われる場合がほとんどですが、検査終了後 1 時間から数日の間に症状が遅発性に生じることもあります。

※ アレルギー体質の方、気管支喘息の方、造影剤の副作用歴がある方の場合は、副作用の危険性が高くなりますので、必ず問診票に記入をお願いします。
(問診票は当院に来院時記入していただきます。)

造影剤を注射されたときは

造影剤を注射中に血管外に漏れることがあり、注射した部位がはれて痛みを伴うこともあります。
基本的には時間とともに吸収されますが、漏れた量が非常に多い場合は、追加処置が必要なことがあります。

万が一の副作用に対して万全の対策を整えて検査を行っています。
なにか異常がみられた場合は検査を中止し、薬剤の投与など最善の対処を行います。
検査中に異常を感じましたら、すぐにお知らせください。

造影MRI検査でよくある質問

なぜ造影剤を使用するのですか？

造影剤は血管（静脈）内に注射され、全身の血管や臓器に分布します。

造影剤を使用することで病気の性質や血管や臓器の様子が鮮明に描出されるようになり、病気の状態をより正確に知ることができ、今後の治療に役立ちます。

どうしても造影検査が必要ですか？

造影剤を使用しなくてもMRI検査は行えますが、病変が検出されず、正確な診断が困難になる可能性があります。造影剤を使用し副作用が起こるリスク、造影剤を使用せず正確に診断できないリスク、それぞれ欠点がありますので有用性が危険性を上回ると判断された場合、同意書に署名をお願いします。

造影剤をどれくらい使用するのですか？

検査目的や患者様の体重にあわせて使用量は変えていますが、通常5～10mlです。

注射された造影剤はどうなるのですか？

注射された造影剤は腎機能が正常であれば、注射後6時間で約90%、24時間以内に全量が腎臓から尿中に排泄されます。

検査前の食事制限はあるのでしょうか？

腹部の検査を受けられる方は、検査時間の4時間前から食事は取らないでください。

ただし、水分（水・お茶）は脱水を避けるためしっかりと飲んでください。

牛乳・ジュース・コーヒーは正しい結果が得られなくなる可能性があるため、飲まないでください。

その他の検査を受けられる方は、食事制限はありません。

常用薬は飲んでもよいのでしょうか？

普段通り飲んでいただいてもかまいません。

授乳中の場合、どうしたらよいですか？

造影検査後、48時間は授乳を避けてください。

造影剤検査を受けた後の制限はありますか？

激しい運動は避け、食事や入浴は普段通りの生活でかまいませんが、尿中への造影剤の排泄を促進するため、水分（水・お茶）を多めに飲んでください。

アルコールは脱水を起こす可能性がありますので、飲まないでください。

帰宅途中や帰宅後に副作用の症状が出たらどうすればよいですか？

我慢せず、速やかに当院（087-811-5588）までご連絡いただくか、救急病院を受診してください。